

路外に逸脱し転覆した。

この事故による負傷者なし。

(2) 乗合バスの死傷事故

7月4日(土)午後2時頃、栃木県の市道において、同県に営業所を置く乗合バスが空車で運行中、交差点を右折した際に、道路を横断していた歩行者をはねた。

この事故により、当該歩行者が死亡した。

事故現場の交差点は、信号や横断歩道の道路標示はなかった模様。

(3) 乗合バスの車内事故

7月7日(火)午前11時42分頃、三重県の国道において、同県に営業所を置く乗合バスが乗客3名を乗せ運行中、バス停に停車しようとしたところ、降車するため立ち上がった乗客が、停車の揺動により転倒した。

この事故により、当該乗客が重傷を負った。

(4) 乗合バスの衝突事故①

7月7日(火)午後6時55分頃、山口県の国道において、同県に営業所を置く乗合バスが空車で運行中、センターラインを越えてきた対向の乗用車と衝突した。

この事故により、当該乗用車の運転者が死亡した。

(5) 乗合バスの衝突事故②

7月8日(水)午後0時55分頃、神奈川県のパール側2車線の市道において、同県に営業所を置く乗合バスが乗客17名を乗せ第1通行帯を運行中、第2通行帯を走行していたバイクが、当該バスの前方右側面に衝突して転倒し、当該バス後輪にてバイク運転者を轢過した。

この事故により、バイク運転者が死亡した。

(6) 個人タクシーの酒気帯び衝突事故

7月6日(月)午前8時頃、東京都の区道において、都内に営業所を置く個人タクシーが、民家の外壁に衝突した。

この事故による負傷者なし。

事故後の警察の調べにより、当該タクシー運転者の呼気からアルコールが検出された。

(7) 法人タクシーの転覆事故

7月7日(火)午後0時5分頃、東京都の都道において、都内に営業所を置く法人タクシーが空車で運行中、交差点を右折する際に、右折先の横断歩道手前の中央分離帯に乗り上げて転覆した。

この事故による負傷者なし。

事故当時、当該タクシー運転者は、カーナビを注視したため、誤って中央分離帯

自動車検査証の有効期間の満了する日が令和2年7月4日から同年8月3日までのもの

※熊本県（八代市、人吉市、水俣市、上天草市、天草市、芦北町、津奈木町、錦町、多良木町、湯前町、水上村、相良村、五木村、山江村、球磨村、あさぎり町）

※鹿児島県（阿久根市、出水市、伊佐市、長島町、鹿屋市、曾於市、志布志市）

[2]福岡県の対象地域に使用の本拠の位置を有する自動車のうち、自動車検査証の有効期間の満了する日が令和2年7月6日から同年8月3日までのもの

※福岡県（大牟田市、八女市、みやま市、久留米市）

[3]長野県の対象地域に使用の本拠の位置を有する自動車のうち、自動車検査証の有効期間の満了する日が令和2年7月8日から同年8月3日までのもの

※長野県（松本市、飯田市、伊那市、安曇野市、上伊那郡宮田村、下伊那郡阿南町、下伊那郡阿智村、下伊那郡下條村、下伊那郡売木村、木曾郡上松町、木曾郡南木曾町、木曾郡王滝村、木曾郡大桑村、木曾郡木曾町）

[4]岐阜県の対象地域に使用の本拠の位置を有する自動車のうち、自動車検査証の有効期間の満了する日が令和2年7月8日から同年8月3日までのもの

※岐阜県（高山市、中津川市、恵那市、飛騨市、郡上市、下呂市）

[5]大分県の対象地域に使用の本拠の位置を有する自動車のうち、自動車検査証の有効期間の満了する日が令和2年7月6日から同年8月3日までのもの

※大分県（日田市、由布市、九重町、玖珠町）

○伸長後の有効期間満了日

自動車検査証の有効期間の満了する日を、令和2年8月4日まで伸長

○継続検査の手続き

対象となる自動車については、令和2年8月4日までに継続検査を受検すれば引き続き自動車をご使用いただけます。

なお、有効期間の伸長による自動車検査証の記載変更の手続きは不要です。

○自動車損害賠償責任保険（共済）の手続き（締結手続の特例措置）

継続検査を受検するまでに保険契約期間の終期が到来する保険契約については、継続契約の締結手続きが8月4日を限度として猶予されます。

詳しくは、契約先の自動車損害賠償責任保険（共済）代理店等にご相談ください。

2. なお、今後の状況に応じ、有効期間の再伸長及び対象地域の拡大等を検討してまいります。

※詳細については、下記リンク先をご覧ください。

→（熊本県、鹿児島県、福岡県）

https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha09_hh_000247.html

→（長野県）

https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha09_hh_000248.html

→（岐阜県、大分県）

https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha09_hh_000250.html

(2) 観光バス及び路線バスの車内換気能力

（配信日：R2.6.19）

大型自動車メーカー等の協力のもと、主な観光バス及び路線バスの車内換気能力についてまとめました。

○観光バスの車内換気能力

観光バスは、エアコンの外気導入モードを使用することにより、窓を閉めた状態で5分程度で換気する能力があります。

また、8割以上の車両は窓を開けられる構造であり、利用者が窓を開けて換気することも出来ます。

○路線バスの車内換気能力

路線バスは換気扇を使用することにより、3分程度で換気する能力があります。

※詳細については、下記リンク先をご覧ください。

→

https://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/top/data/covid19_info_shyanaikanki.pdf

(3) 夏季における運転者の体調管理の徹底について（要請）

（配信日：R2.6.12）

トラック事業者の皆様におかれましては、運転者の新型コロナウイルスの感染予防のため、マスク着用の徹底等の取組を進めていただいておりますこと、感謝申し上げます。

これから夏季を迎えるに当たり、熱中症を予防するなど体調管理に努める必要がございますが、今夏においては新型コロナウイルスの感染予防対策も必要とされています。

つきましては、新型コロナウイルス感染予防対策に加え、特に次の点に留意し、運転者の体調管理に万全を期していただきますようお願い申し上げます。

1. 始業点呼時に運転者の健康状態を確実に把握するとともに、運転者に対して、運行中に体調の異変を感じた時に、無理に運行を続けると非常に危険であること

を理解させ、運行中に体調の異常を少しでも感じた場合、速やかに営業所に連絡する等の指導を徹底すること。

2. こまめに水分・塩分を補給することや、一名乗車時や屋外での荷役作業等において他人と十分な距離を確保できる場合にはマスクを外すこと等の熱中症予防について、運転者に対して指導すること。

(参考)「令和2年度の熱中症予防行動」(厚生労働省・環境省)

→ https://www.wbgt.env.go.jp/pdf/20200526_leaflet.pdf

(4) 事業用自動車の運転者に対する飲酒運転の防止等法令遵守の徹底について
(再要請)

(配信日：R2.5.22)

事業用自動車の運転者に対する飲酒運転の防止については、「事業用自動車総合安全プラン2020」において事業用自動車における飲酒運転ゼロを目標に掲げ、様々な取組を実施してきたところです。また、昨年5月にも「事業用自動車の運転者に対する飲酒運転の防止等法令遵守の徹底について」(通達)を発出し、事業者の皆様へ、特に以下の事項について周知徹底していただくよう、お願いしてきたところです。

しかしながら、昨年の飲酒運転による事業用自動車の交通事故は57件と、「事業用自動車総合安全プラン2020」を策定した2016年以降で最多となりました。また、本年は、国土交通省への報告が求められる重大事故が、昨年同時期を上回る13件発生しています(速報ベース)。特に、5月に入り4件の事故が発生しているところです。

自動車運送事業は、今般の新型コロナウイルス感染症が拡大する中、国民生活・国民経済の安定確保に不可欠な存在であり、事業者の方々に日々ご尽力いただいているところですが、こうした中で飲酒運転による事故が相次いで発生していることは、運送事業に対する社会の信頼の失墜に繋がる事態であり、誠に遺憾です。つきましては、「自動車運送事業者が事業用自動車の運転者に対して行う一般的な指導及び監督の実施マニュアル」等を活用し、飲酒運転の防止の徹底について、改めて周知徹底いただくよう、お願いいたします。

運転者に対する指導・監督、点呼等において、以下のことを徹底すること。

(1) 飲酒による身体への作用・影響や飲酒運転の危険性等を事例を用いて理解させること。

(2) 確実な点呼の実施体制が確保できているか確認し、必要に応じ見直しを行うとともに、点呼時におけるアルコール検知器を用いた酒気帯びの有無の確認を行うこと。

(3) 運転者の飲酒状況を把握するとともに、日常的に飲酒する習慣がある運転者に対しては、遠隔地の点呼において確実に酒気帯びの有無を確認できる機器を用いるなどにより管理を行うこと。

(5) 新型コロナウイルス感染防止に向けたバス・タクシーの車内換気について（要請）

（配信日：R2.3.6）

先般、厚生労働省のホームページにおいて、「新型コロナウイルスの集団感染を防ぐために」が掲載され、「換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることを避けてください」との要請がされたところです。

バス、タクシー事業者の皆様におかれましては、車内は閉鎖された空間で乗務員と乗客が長時間かつ近距離で接することから、感染拡大を防止するため、エアコンを用いて外気を導入することや、乗客の降車後に窓を開けて換気する等の車内換気に努めていただきますようお願いいたします。

※厚生労働省HP

「新型コロナウイルスの集団感染を防ぐために」

→ <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000602323.pdf>

(6) 新型コロナウイルスに係る予防・まん延防止の再徹底について（要請）

（配信日：R2.2.21）

新型コロナウイルスに係る感染予防対策として、マスクの着用、咳エチケット、手洗い等の対策を繰り返しお願いしているところですが、今般、複数のタクシー運転者への感染が確認されました。

バス、タクシー事業者の皆様におかれましては、次の対策を検討し速やかに措置していただくようお願いいたします。

また、従業員に新型コロナウイルスの感染が確認された場合には、速やかに各運輸局に報告していただくよう併せてお願いいたします。

1. 始業点呼時の対応

- ・運転者に疲労、疾病等を報告させる際には、体温測定による体調の確認を行うこと等により、運転者の健康状態を確実に把握すること
- ・マスクの着用等の感染予防対策が取れていることを確認すること

2. 体調不良が確認された際の対応

発熱やせき等の症状がある場合には、乗務を中止させ、速やかに医療機関に受診

【参考】

*** 自動車局ホームページ**

(<http://www.mlit.go.jp/jidosha/index.html>)

*** 自動車の不具合情報はこちら**

最近、自動車に乗っていたら異常発生、なんてことはありませんでしたか。そんな時は、車検証を用意して、国土交通省「自動車不具合情報ホットライン」に連絡です。皆様の声は、車種ごとに、ホームページ上で公開され、メーカーがきちんとリコールをしたり、メーカーのリコール隠しを防ぐために活用されます。

・ ホームページ受付

(<http://www.mlit.go.jp/jidosha/carinf/rcl/hotline.html>)

・ フリーダイヤル受付 0120-744-960

(平日9:30~12:00 13:00~17:30)

・ 自動音声受付 03-3580-4434 (年中無休・24時間)

*** 自動車のリコール等の通知等があったときは！**

使用されている自動車について、自動車ディーラーなどから、リコール又は改善対策の通知が送付されたり、その対象であることが新聞等で公表されたときは、安全・環境への影響から、その自動車の修理を行うことが必要になったということです。道路運送車両法により、自動車ユーザーは、自分の自動車が保安基準に適合するよう点検・整備する義務がありますので、忘れずに修理を受けましょう。

